・おいち……桧山台の長右エ門の娘に「おいち」という娘がおった。秋祈祷に廻ってきた八面（現稲川町）の法院様が、春までそこに泊っていて、おいちに手習いや絵を教えた。当時の女性として絵をかくなどは珍しかった。婿もとらず嫁にもならないうちに、仙台領岩谷堂から廻って来た「からくりまし」に、ほれて欠落ちした。夫は木挽となり早坂（現稲川町）に落着き、おいちもそこでなくなった。子どもはなかったという。

蛭川の高橋久治宅で「おいち」の作というご祝儀用に使うめでたい図柄の六曲一双の屏風二双を所蔵している。

そのほか、絵や習作模写などどこかにのこっているものと思われる。